

# 南薩教育事務所だより

令和5年10月発行

## 教師は「反省」でなく「振り返り」による授業改善

指導課長 川畑 浩二

新学習指導要領が、小学校では令和2年度、中学校では令和3年度から全面実施となった。各学校においては、児童生徒に必要な資質・能力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の実現に取り組んでいる。併せて、学習指導要領総則第1章第3の1の(4)には、「児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること」と示されているように、授業の終末に「振り返り」を位置付け、研究している。

このような取組を実践していくためには、教師も児童生徒と同じように「振り返り」をすることが重要である。教師が振り返ることで、「授業が計画どおりにできた」、「生徒指導が充実していない」など、うまくいったこと、できなかったことを、軌道修正してやり方を工夫し、再チャレンジするなど、次の行動につなげることができる。もし、教師が「振り返り」をしなければ、うまくいったこと、できなかったことだけに着目し、なぜそのような状況になったのか要因を分析しないことから、新たなチャレンジにつなげることができない。

「振り返り」に似た言葉に「反省」がある。反省も「過去の行動を顧みる」という意味では同じだが、目的が全く違う。反省は、「できなかった」、「うまくいかなかった」だけをフォーカスし、次に同じような失敗をしないように改善することが目的である。一方、「振り返り」は、「できなかった」、「うまくいかなかった」だけでなく、「できた」、「うまくいった」にもスポットを当て、全ての状況を分析し、これまでの実践をリソース化して活用していくことが目的である。

教師には、令和の日本型学校教育が目指す「新たな教師の学びと姿」を意識し、授業後は、「反省」でなく「振り返り」を行い、児童生徒に求められる資質・能力の育成のための授業改善を実現していくことを期待する。

## 服務指導のハンドブック「信頼される教職員・学校を目指して（R5.6改訂版）」の活用について

今年度6月に、服務指導ハンドブックを、近年の国の法改正や通知等を踏まえ、一部改定しています。今まで、積極的な活用をお願いしてきましたが、改めて、教職員一人一人が自分の言動等を振り返ることで、教職員の職務についての責任や自覚を深め、不祥事の根絶に資することができるよう、引き続き、積極的な活用をお願いします。

- 朝、出かける前に振り返ろう。      ○不祥事を起こしてしまった場合を考えよう。
- 授業、業務の前に振り返ろう。      ○感謝の気持ちで一日を振り返ろう。
- 休日や勤務時間外にも振り返ろう。      ○飲酒の機会に振り返ろう。

**「教えることは学ぶことである 学ぶことは 深く生きようと願うことである」**

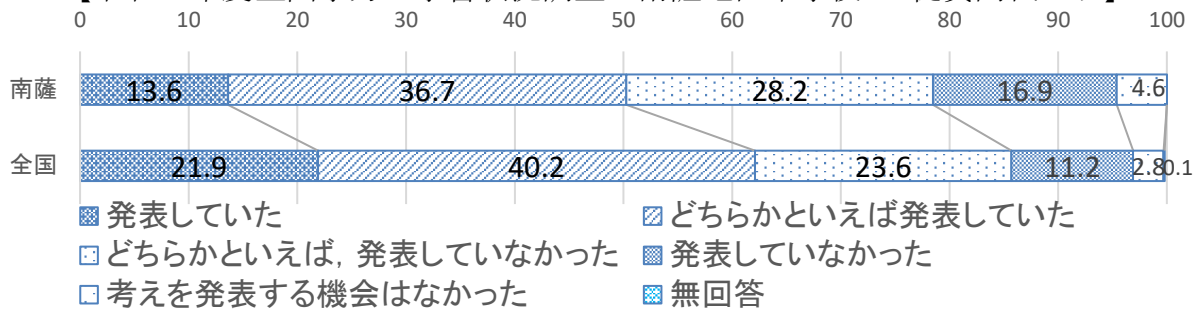
# 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善を！

令和5年4月18日（火）に、全国の小学6年生と中学3年生を対象として、国語、算数・数学、英語の教科で全国学力・学習状況調査が実施されました。南薩地区の正答率としましては、国語、算数・数学については、全国より2～4ポイント程度低い結果となりました。英語については、全国と比較して大きく下回る厳しい結果となっています。

特に、中学校では、授業における課題が見えてきます。下のグラフにあるように、中学校の生徒質問紙の「1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」という質問では、「どちらかといえば、発表していなかった。」、「発表していなかった。」、「考えを発表する機会がなかった。」の合計が約半数となっています。「学習者主体の学び」を実現するためには、児童生徒が課題を自分事として捉えることや、見通しをもつこと、学習の方法や内容を選択すること、学びの振り返りをするなど、授業に位置付けていく必要があります。

南薩地区では、授業がより学習者主体となるようにしながら、「子供一人一人の学びを成立させ、力を付ける授業づくり」を目指して取り組んでまいります。

【令和5年度全国学力・学習状況調査 南薩地区中学校 生徒質問紙より】

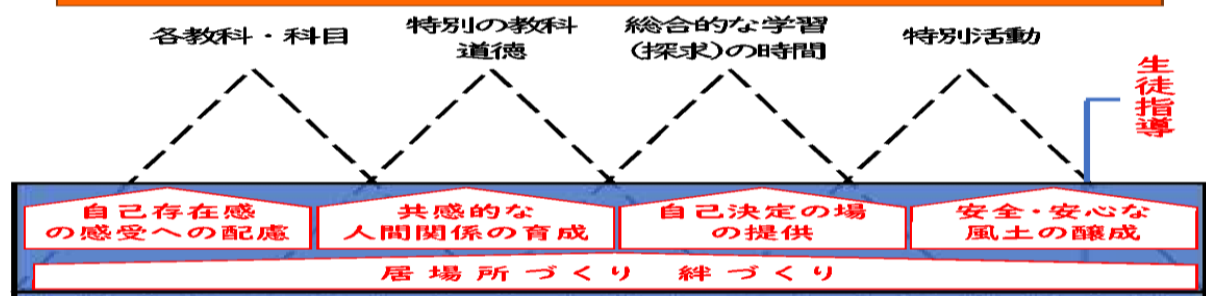


## 魅力ある学校づくり

### 【学習指導と生徒指導の一体化】

授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場となります。南薩地区においても生徒指導を意識した授業づくりの具現化を目指して、生徒指導の実践上の視点である、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識して取り組んでいます。

### 学校教育目標・目指す子供像



# 「体力アップ！チャレンジかごしま」への 計画的・継続的な取組を

「体力アップ！チャレンジかごしま」の趣旨は、仲間と楽しく集団で協力し合いながら運動に取り組むことにより、好ましい人間関係や社会性を育成し、積極的に外遊びや運動する機会の奨励となっています。

南薩地区の前期の取組状況は表のとおりです。各学校、各学級で積極的に取組んでいるようです。記録への挑戦，多種目への挑戦を行うことで，運動の習慣化，運動能力の向上が図られます。ぜひ，計画的・継続的に取り組まれてください。また，本年度よりフォームからの申告となっており，申告忘れがあります。申告担当，申告確認担当を決め，児童生徒の頑張りを確実に申告してください。

	小学校		中学校	
	学校申告率	学級申告率	学校申告率	学級申告率
地区 (R5)	90% (36/40)	64% (171/266)	82% (14/17)	74% (70/95)
地区 (R4)	83% (35/42)	65% (181/279)	82% (14/17)	80% (79/99)
地区 (R3)	86% (36/42)	65% (180/276)	88% (15/17)	83% (82/99)

## 家庭・地域の教育力向上に向けた取組

様々な分野で活躍されている方々を講師としてお招きし，地区内の家庭・地域の課題解決に向けて，取り組んでいます。



○日時 令和5年10月25日(水)  
○会場 指宿市民会館 大ホール  
(住所:指宿市東方9300-1)  
○開会 午後2時  
○講演 午後2時5分～午後3時45分  
演題 「子供たちの特性の捉え方と可能性を引き出す手立てについて(調整中)」  
講師 知的障がい者サッカー日本代表監督 鹿児島ユナイテッドFCフューチャーズ総監督 西真一(にし しんいち)氏  
○対象 お問い合わせの上，御来場ください。お待ちしております。

		南社会教育に関する研修会及び講演会
6/28(水)		地区PTA役員研修会
講演	演題	町内会長就任，そして，実践へ～みんなが活躍できる地域を目指して～
	講師	金子 陽飛氏 (鹿児島市唐湊山の手町内会会長)
8/30(水)		地区自治公民館経営研究会
講演	演題	現代社会における社会教育の意義と可能性～公民館活動を通じて，孤立・孤独を乗り越える～
	講師	酒井 佑輔氏 (鹿児島大学法文学部法経社会学科准教授)
事例発表		地域の特性を生かした自治会活動の在り方について 有馬 象多郎氏 (指宿市山川校区公民館館長)
10/12(木)		地区社会教育委員研修会 (兼人権教育ブロック別指導者研修会)
講演	演題	誰もが幸せに生きるために～認め合い，支え合う社会へ～
	講師	常深 透氏 (県人権同和对策課人権研修推進員)
10/25(水)		地区PTA会員等教育講演会
講演	演題	フットボールによる共生社会の実現
	講師	西 真一氏 (知的障がい者サッカー日本代表監督)